

牧野池における園芸スイレン対策 (2013年から2020年の記録)

中村 肇

名古屋自然史談話会

Report of countermeasures on Water Lily in Makino Pond (Makinogaike Green Park), Nagoya, Aichi, Japan, between 2013 and 2020

Hajime NAKAMURA

Nagoya Natural History Society

Correspondence:

Hajime NAKAMURA E-mail: nakamura@tameike.info

要旨

牧野池 (愛知県名古屋市名東区 牧野ヶ池緑地) では、2013年から園芸スイレン対策が行われている。根茎の抜き取りを継続したことで、生育面積は少しずつ減少しているが、労力を軽減し、無理なく継続できる効果的な除去方法を検討することが今後の課題と言える。

はじめに

園芸スイレン *Nymphaea* sp. (図1) は、湖沼やため池などに生育する多年生の浮葉植物で、海外に自生するスイレン属植物ならびにそれらを原種として交配等によって作出された栽培品種の総称である。花が美しい園芸スイレンは人気のある観賞植物で、その品種は日本で

販売されているものに限っても100種を超え、個人でも容易に入手し、家庭のミニビオトープや水槽で栽培して観賞できる (角野, 2014)。園芸スイレンの代表的な品種については、赤沼・宮川 (2010) や川島 (2010)、Slocum et al. (1996) などで紹介されている。

日本に自生するスイレン属植物には、ヒツジグサ

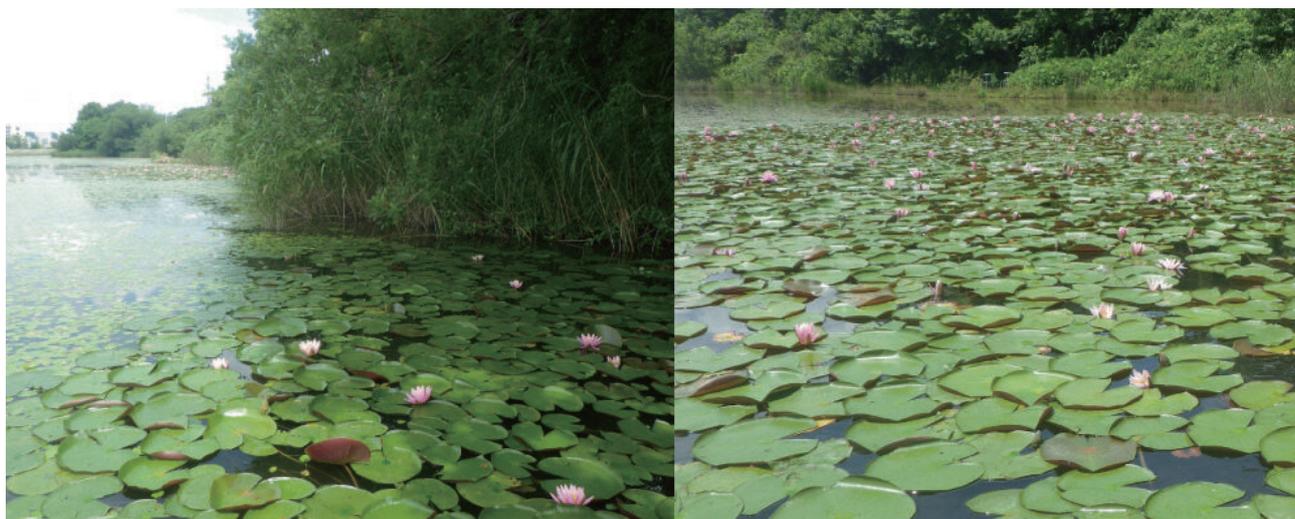


図1. 牧野池に生育する園芸スイレン (2013年6月27日)

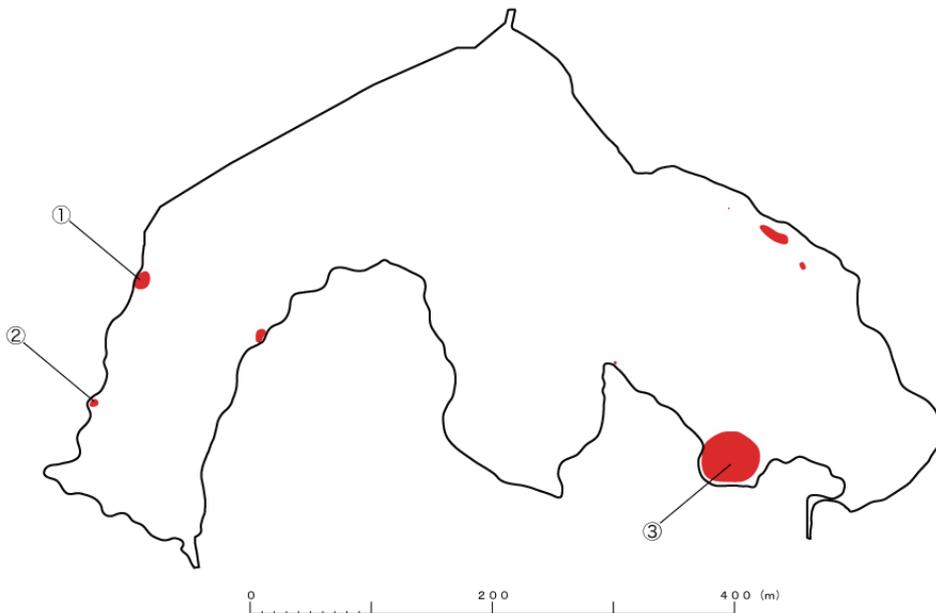


図2. 牧野池における園芸スイレンの分布（2013年6月27日）と抜き取り場所（2014年～2020年）

*Nymphaea tetragona*があり、かつて名古屋市内にも生育していたが、現存を確認できないことから名古屋市版レッドリストにおいては絶滅と位置付けられ（名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課，2015），現在，名古屋市内で確認されるスイレン属植物は，観賞等の目的で意図的に導入された個体由来すると考えられる。

名古屋市内の野外で確認される園芸スイレンは，耐寒性をもつ温帯性スイレンと考えられ（中村，2016），温帯性スイレンの多くは，分枝しながら横に伸びる根茎をもつことから，いったん定着すると群落はどんどん広がり（角野，2014），人間が管理しきれないため池に植栽されると，増殖して葉が重なり合うほどに水面を覆い，その場に本来生育していた水草を全滅させてしまう（芹沢・瀧崎，2012）。さらに，根茎やそこから伸びる細根がお互いに絡み合っただけで留まらず，水深があまりに浅くなると，調整池の機能を回復するために浚渫などの土木的手法による大規模な補修が必要になってしまい，コストの増大や生物相への大きなダメージを招きかねない（宮野ほか，2011）。そのため，生育環境が競合する植物の有無等により優先度を評価した上で対策を検討する必

要があると考えられる。

牧野池（愛知県名古屋市名東区 牧野ヶ池緑地）は，名古屋市内において園芸スイレンが生育するため池の1つであり，牧野ヶ池緑地で活動する市民ボランティア等で構成される『牧野ヶ池緑地保全協議会』によって園芸スイレン対策が行われている。

本稿では，2013年から2020年までに牧野池で実施した園芸スイレン対策などについて報告する。

牧野池における園芸スイレン対策

牧野池では，2013年の予備調査（生育状況調査）において牧野池内での分布を把握し，2014年以降は重点的に対策を行う区画を定め，根茎の抜き取りなどの方法による対策を継続し行い（表1，図2），2020年は10月31日および11月9日に実施した（図3～7）。

現状と課題

牧野池における園芸スイレン対策では，池底を這う根茎に対し，備中鍬を用いて根茎を剥ぎ取る方法や，浮葉を引っ張りながら根茎を足の爪先で蹴り上げるようにして浮き上がらせる方法を用いている。

これらの方法は，根茎そのものを取り除くことが可能

であるために、スイレンの除去に適した方法と考えられるものの、抜き取り場所の水深と根の張り具合および作業者の技量によって作業効率が左右されてしまうため、一度で広範囲の抜き取りを終えることは容易ではないかもしれない。

筆者の観察によると、園芸スイレンは水深50 cm～1 m程度で、水が穏やかに流れ、やや富栄養化傾向にあるため池などに定着すると、根茎を分枝しながら横に伸び、1～2年で2倍以上の面積へと拡大する。池底を這うように伸びる根茎は少なくとも3 mまで成長し、層状に重なりながら生育面積を拡大する。さらに、波浪などにより折れた根茎が汀に漂着して新たな個体群として定着することや、結実した種子からの実生繁殖も確認している（図8）。

園芸スイレン対策を効果的に実施するには、新たな侵入を防ぐのはもちろんのこと、侵入後なるべく早い段階で取り除くべきではあるが、侵入から時間が経過し広範囲に増え広がってしまった場合には、綺麗な花を咲かせる植物を除去することへの理解を得つつ、効果的な除去方法を検討していく必要がある。

表1. 牧野池におけるスイレン対策の記録

実施日	実施内容
2013年6月27日	生育状況調査
2014年5月31日	地点①：抜き取り
2014年6月7日	地点①：抜き取り
2014年10月4日	地点①：抜き取り
2015年5月30日	地点①：抜き取り
2016年11月7日	地点②：抜き取り
2017年5月29日	地点②：抜き取り
2017年6月5日	地点②：抜き取り
2017年11月6日	地点②：抜き取り
2018年5月28日	地点③：抜き取り
2018年6月4日	地点③：抜き取り
2018年10月29日	地点③：抜き取り
2018年11月5日	地点③：抜き取り
2019年5月27日	地点③：抜き取り
2019年6月2日	地点③：抜き取り
2019年10月28日	地点③：抜き取り
2019年11月5日	地点③：抜き取り
2020年10月31日	地点③：抜き取り
2020年11月9日	地点③：抜き取り



図3. 園芸スイレンの抜き取り（2020年10月31日）



図4. 抜き取った園芸スイレンの回収（2020年10月31日）



図5. 抜き取った園芸スイレン（2020年11月9日）



図6. 作業前の様子（2020年11月9日）



図7. 作業後の様子（2020年11月9日）

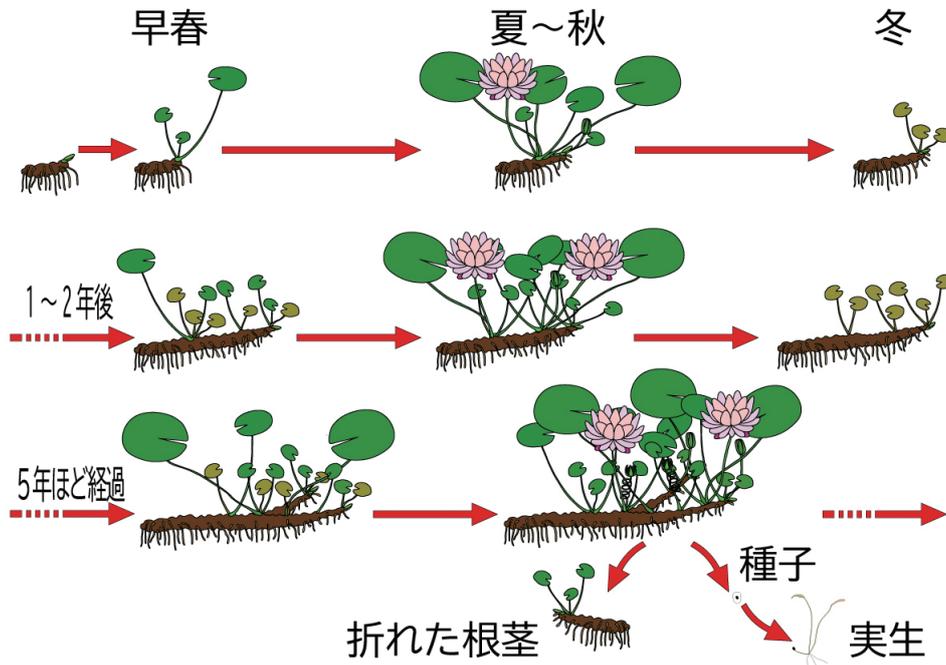


図8. 園芸スイレンの成長（概略図）

引用文献

- 赤沼敏春・宮川浩一. 2010. 新版 スイレンとハスの世界. エムピージェー, 横浜. 175pp.
- 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草. 文一総合出版, 東京. 326pp.
- 川島淳平. 2010. スイレンハンドブック. 文一総合出版, 東京. 64pp.
- 宮野晃寿・藤岡正博・遠藤好和・佐藤美穂・諸澤崇裕. 2011. 調整池に繁茂する外来スイレン (*Nymphaea* spp.) のソウギヨ (*Ctenopharyngodon idella*) 導入による抑制. 筑大演報, 第27号: 47-70.
- 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課. 2015. レッド

データブックなごや2015 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 植物編. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋, 385pp.

中村 肇. 2016. 牧野池における園芸スイレン対策, なごやの生物多様性 3: 89-93.

芹沢俊介・瀧崎吉伸. 2012. スイレン. STOP! 移入種守ろう! あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～(愛知県). 愛知県環境部自然環境課, 名古屋. p.138.

Slocum PD, Robinson P and Perry F. 1996. Water Gardening: Water Lilies and Lotuses. Timber Press, Portland. 322pp.

